

## 第3学年 美術科学習指導案

日時 平成17年11月1日(火) 6校時

学級 3年5組 男19名 女21名 計40名

場所 第1美術室

指導者 教諭 千田 香理

1 単元名 彫刻「石彫～オリジナル印鑑づくり～」自分の想いを込める

2 単元について

(1) 教材観

本教材は美術科第2学年及び第3学年の目標をもとにして、第2学年及び第3学年の内容イ「主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組み合わせなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ること」を受け設定したものである。そして、第2学年及び第3学年の彫刻などの表現については、生徒が自分の表現したいものを心豊かに表現できるよう、立体作品を幅広く鑑賞する学習と関連させながら、主題を生き生きと創造的に表現するための構想力を高める指導が必要としている。

印鑑づくりは、美術が不得意な生徒でも最後まで意欲をもって取り組むことができる題材であると思う。印鑑の紐(ちゅう=印のつまみの部分)に彫刻を施し、仕上げに石独特の様子が現れるまで磨きあげて完成させていくことは、忍耐力を必要とするが達成感がおおいに味わえる中学校最後の美術学習にふさわしいものである。

この学習の前に、自分の内面の世界を絵画で表すという題材を扱い、事前学習としてダリやマグリットなどの抽象絵画を鑑賞した。一見自由な表現で描きやすいと思われるのが抽象であるが、具象的なものを組み合わせて抽象的世界を描く生徒が多かったため、紐の部分は、具象・抽象にこだわることなく、自分が思うままに表現したいものを作らせたいと考えた。

紐の部分は判を押すために持つ所という目的もあるが、鑑賞としての彫刻があっても良い。よって、彫刻などの立体作品の鑑賞活動を取り入れることで、作家の作品に興味をもつだけでなく、感銘や刺激を受けたり、デザイン発想の参考になることを感じ取らせたい。そして、自分の作品の意図を明確に表現できるような豊かな発想ができれば、作品作りも意欲的に取り組み、作品への想いも深まると考える。

(2) 生徒の実態

自分の作品の完成には意欲をもって取り組むことができる生徒たちである。より良い作品作りへのヒントやアドバイスを得るために、教師に積極的に質問する生徒が多い。また、周りの生徒の作品に関心を持つ生徒も多く、すばらしい作品には素直に興味や発言ができる生徒たちである。

本学級は第3学年の中では、授業に対する発言や反応は少なく、デザインの発想に時間がかかることが多い。そして、自分の意見を素直に言えず、自分のグループ以外にコミュニケーションの幅を広げられない生徒が多い。よって、鑑賞活動を通して、作者の気持ちを読み取って自分の意見を話したり、聞いたりすることで、一人ひとりの個性の違いや互いの良さを理解させるとともに、印鑑づくりという根気のいる作業で、あきらめずに最後までやり遂げる自信をつけさせたい。

C段階の生徒には、制作意欲はあるが、構想段階でつまずいたり、作業が進まず作品の完成に至らない生徒、投げやりな姿勢で完成に至らせようとしたりする生徒がいる。よって、繰り返しの援助やアドバイスを行って、制作意欲の継続を図る指導の工夫をしている。今回の彫刻では、完成への達成感は大いだが、失敗すると元には戻らないので、焦らずゆっくり落ち着いて取り組ませる姿勢と繰り返しの声かけが必要である。

### (3) 指導観

今までの授業でもデザインの発想に時間がかかることが多かった。よって、作家や先輩たちの作品など様々な参考作品を鑑賞することで、よさや美しさ、工夫している点を見つけて、作品のデザインの発想を広げ、形につなげさせたいと考えた。また、意思表示をすることが苦手な生徒が多いので、鑑賞活動で周りの生徒の感想や意見を聞くことで、作品だけでなく色々な見方や考え方があることに気づかせたい。さらにそれは自分の作品を工夫していく意欲や、作品への想いが強まることにつながるであろう。なお、印鑑制作が中学校最後の作品でもあるので、紐のデザインは自分の想いを素直に表現できるよう、抽象と具象どちらでも良いとした方がいいと考えた。

また、三つの美術の教科性という面にもつながるだろう。一つ目に、作家の作品を鑑賞することで、作家がどのような想いを込めて作品を創造したのかを考え、自分にしかない価値を求めて、世界でたった一つしかないものを創り出すということ。二つ目に鑑賞活動で他者との違いを学ぶこと。三つ目に、美しいものやすばらしいものに素直に憧れる気持ちを持たせることで、最後の完成まであきらめずにがんばろうという意欲にもつながる心の教育としての教科性である。

さらに、制作途中でつまずいた時や悩んだ時には、再度鑑賞活動を行うことで、生徒一人ひとりの創造活動はより充実すると考える。

## 3 単元の目標及び単元の評価計画

### (1)単元の目標

- ・ 作品に自分の想いを込め、興味をもって最後まであきらめずに制作することができる。
- ・ 鑑賞作品から発想を広げ、計画的に構想を練ることができる。
- ・ 素材の特徴を理解して、様々な道具を工夫して使い、丁寧に石を彫り進めることができる。
- ・ 参考作品から、作者の思いや良さ、美しさを感じ取ることができる。

### (2)単元の観点別評価規準

	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	自分の想いを込めた作品を最後まであきらめずに制作しようとする。	鑑賞や参考作品から発想を広げ、できあがりや形を見通しながら構想を練ることができる。	素材の特徴を理解して、様々な道具を工夫して使い、丁寧に彫りを進めることができる。	参考作品や、友人の作品を鑑賞し、作者の思いや作品の良さ、美しさを感じ取ることができる。

### (3)単元の評価計画（具体的評価規準）17時間 本時6 / 17

時間	学習内容	評価規準	観点	評価場面（方法）	具体的評価規準		(C)努力を要する生徒への支援
					(A)十分満足できる	(B)おおむね満足できる	
2	「篆刻」 参考作品の鑑賞  制作過程の説明	・参考作品を鑑賞し、素材のよさや美しさを味わうことができる。 ・制作への関心や意欲を高めようとしている。	鑑賞、関意態	・作品鑑賞（観察）	・素材のよさや美しさだけでなく、参考作品のよさや美しさを理解することができる。 ・制作への関心が高まり、次の段階に進もうとしている。 ・材料や技法がよく分かり、制作への意欲を高めようとしている。	・素材のよさや美しさを味わうことができる。 ・制作への関心や意欲を高めようとしている。	・鑑賞の視点を確認させ、作品を見る。  ・興味をもたせるような働きかけと繰り返しの指導。
	デザインのアイデアスケッチ	デザインを決め、制作手順に従って取り組むことができる。	関意態、発・構想	・アイデアスケッチ（観察）	・デザインを工夫し、制作手順に従って、意欲的に取り組むことができる。	・デザインを決めて、制作手順に従って、取り組むことができる。	・参考作品や、興味があるものを具体的に挙げさせる。

3	彫り	丁寧に彫りを進めることができる。	技能	(観察)	・慎重かつ丁寧に、工夫して彫りを進めることができる。	・丁寧に彫りを進めることができる。	・手本を示しながら取り組ませる。
	自己評価と作品鑑賞	自己評価ができ、興味ある作品を見つけ、鑑賞しようとしている。	関、鑑	・自己評価(評価カード) ・作品鑑賞(鑑賞カード)	・鑑賞の目標を理解し、視点を定めて鑑賞しようとする。	・興味ある作品を見つけ鑑賞しようとしている。	・鑑賞の視点を確認させ、作品を見る。
1 6/ 17 本 時	「紐」参考作品・現代彫刻の鑑賞 アイデアを形にする	作品鑑賞を通して、作者の想いや工夫を考え、デザインの発想を広げたり、形に表してみたりすることができる。	関 意 態、 鑑 賞、 技 能	(観察) ・作品鑑賞(学習プリント) ・形の発想(観察)	・作品鑑賞を通して、作者の想いや工夫を考え発表できる。鑑賞からデザインの発想につなげ、形に表わすことができる。	・作品鑑賞を通して、作者の想いや工夫を考え、デザインの発想を広げたり、形に表してみたりすることができる。	・鑑賞の視点を確認させる。 ・周りの友達の商品を見せたり、教えたりして考えさせる。
3	紐の部分のデザインのアイデアスケッチ	自分の想いがこもったデザインを決め、完成図を描くことができる。	関 意 態、 発 ・ 構 想、 技 能	(観察) (学習プリント)	・想いを込めて、積極的にアイデアスケッチをすることができる。 ・立体的に完成図を描くことができる。	・想いを込めてアイデアスケッチをすることができる。  ・平面的ではあるが、完成図を描くことができる。	・参考作品や、興味があるものを具体的に挙げさせる。 ・平面で表現させる。
	石にデザインを写す	石にデザインを描くことができる。	技能	(学習プリント)	・立体を想像しながら4面に容易に描くことができる。	・4面に描くことができる。	・4方向からはどのように見えるか考えさせる。
3	荒彫り	道具を使いこなし、丁寧に彫りを進めることができる。	技能 関 意 態、	(観察)	・デザインに合った彫り方や適した道具を選び、工夫して彫ることができる。	・デザインを決め、それに適した道具を選び、彫ることができる。	・周りの生徒の作品を見せたり教師が手本を示したりする。
3	細彫り	細部を工夫しながら、丁寧に彫りを進めることができる。	能 関 意 態、 技	(観察)	・細部に道具を使いこなし、慎重かつ丁寧に彫りを進めることができる。	・細部を工夫しながら、丁寧に彫りを進めることができる。	・周りの生徒の作品を見せたりや教師が手本を示す。
1	仕上げ(磨き)	石の模様が現れるまで丁寧に磨くことができる。	関、 技	(観察)	・根気強く丁寧に磨きあげることができる。	・丁寧に磨くことができる。	・手本で示し、模様の美しさを見せて教える。
1	作品鑑賞	作者の想いやよさや美しさを感じ取ることができる。	関 意 態、 鑑 賞	・自己評価(評価カード) ・作品鑑賞(鑑賞カード)	・作品のよさや美しさをじっくり味わい、作者の想いを考え、発表することができる。	・作品のよさや美しさを味わうことができ、作者の想いを考えることができる。	・周りの発表を聞き、気づかせる。個別指導で鑑賞の視点を与える。

#### 4 本時の指導

本時のねらい：作品鑑賞を通して作者の想いを考えたり、よさや美しさ、工夫など参考になる点を見つけたりして、デザインの発想を広げ、形に表してみることができる。

##### (1) 研究主題との関わり

###### ア 基礎・基本の重点

・参考作品からよさや参考になる点を見つけることができること(鑑賞、関心・意欲・態度)

###### イ 課題解決を図るための指導過程の工夫

・鑑賞作品を充実させ、より作品のよさや美しさ、参考点を見つけるといった制作意欲に通じる学習環境を整える。

###### ウ 評価を生かした指導の工夫

・鑑賞したことを、文章にすること、互いに意見を聞きあったりすることを通して、自分の作品のアイデアを膨らませていくよう取り組ませる。

###### エ 定着を図る工夫

・鑑賞作品を充実させ、周りの友達の見方を聞くことで、自分の見方・考え方を見直したりして、定着を図ることができるようにする。

## (2) 展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	課題の設定	1 本時の学習内容と課題設定 ・参考作品の写真を黒板に掲示する。	・本時の学習が自分の作品のデザインの発想を広げるための鑑賞学習であることを理解させる。	
学習課題 様々な作品を鑑賞し、どんな形にしたいか粘土を使ってスケッチしてみよう				
展開 27分	課題の追究	2 鑑賞前のアイデア ・どんな彫刻にしたいか率直に章で書いてみる。 ・数名発表する。  3 鑑賞 現代彫刻 ヘンリー・ムア「母と子」 ・作品から感じたことや考えたこと、工夫していることを書く。 ・抽象と具象の説明(確認)  見る視点 ・形のおもしろさ ・形の美しさ、変わっている点 ・作者の想いと自分の想いの違い(題材名から作品の形を見て考える)  4 鑑賞 生徒作品 ・作品を鑑賞しながら、形が抽象か具象か考える。	・鑑賞前に、どんな彫刻にしたいか率直な今の気持ち、または前もって考えていたことを書くよう助言する。  ・参考になる友達の考えをメモさせる。 ・他者の発表を聞くことで、様々な作品の感じ方があることに触れさせ、作品鑑賞の視点を集められるようにする。 ・違う考え方、感じ方がたくさん挙がるように補助的な発問を準備し、支援する。	・現代彫刻に関心を持ち、作者の想いや工夫を考えようとしている。(関)(鑑)
15分	課題の解決	5 鑑賞後のアイデアを形にする ・鑑賞後に、考えがどう変化したか考えながら、粘土をヘラで削ったり切ったりしながら形にしてみる。  ・できあがったものを参考として見せる。	・鑑賞が今後の自分の作品の表現にどう活かすことができるか考えさせる。 ・削りながら形にしていけることを説明する。	・削ったり、切ったりしながら形に表現することができる(発)(技)
終末 3分		6 次回の学習内容を確認する	・次回の学習への意欲づけとなるようにする。	